（別紙様式２）

DIEPSS（薬原性錐体外路症状評価尺度）全項目評価用紙

コード

０ ＝ なし、正常

１ ＝ ごく軽度、不確実

２ ＝ 軽度

３ ＝ 中等度

４ ＝ 重度

患者：

評価者：

評価日：　　　 年　　　 月　　　 日

評価時間：　　　　　　 ～

適当なもの１つに丸をつける。

１ 歩行 Gait　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　０ １ ２ ３ ４

小刻みな遅い歩き方。速度の低下, 歩幅の減少, 上肢の振れの減少, 前屈姿勢や前方突進現象の程度

を評価する。

２ 動作緩慢 Bradykinesia 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　０ １ ２ ３ ４

動作がのろく乏しいこと。動作の開始または終了の遅延または困難。顔面の表情変化の乏しさ（仮面

様顔貌）や単調で緩徐な話し方の程度も評価する。

３ 流涎 Sialorrhea　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

唾液分泌過多。

４ 筋強剛 Muscle rigidity 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　０ １ ２ ３ ４

上肢の屈伸に対する抵抗。歯車現象, ろう屈現象, 鉛管様強剛や手首の曲がり具合の程度も評価する。

５ 振戦 Tremor　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

口部, 手指, 四肢, 躯幹に認められる反復的, 規則的 ( 4 ～ 8 Hz ) で, リズミカルな運動。

６ アカシジア Akathisia 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

静座不能に対する自覚；下肢のムズムズ感, ソワソワ感,絶えず動いていたいという衝動などの内的

不穏症状とそれに関連した苦痛。運動亢進症状 (身体の揺り動かし, 下肢の振り回し, 足踏み, 足の組

み換え, ウロウロ歩きなど) についても評価する。

７ ジストニア Dystonia　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

筋緊張の異常な亢進によって引き起こされる症状。舌, 頚部, 四肢, 躯幹などにみられる筋肉の捻転

やつっぱり, 持続的な異常ポジション。舌の突出捻転, 斜頚, 後頚, 牙関緊急, 眼球上転, ピサ症候群

などを評価する。

８ ジスキネジア Dyskinesia　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

運動の異常に亢進した状態。顔面, 口部, 舌, 顎, 四肢, 躯幹にみられる他覚的に無目的で不規則な

不随意運動。舞踏病様運動, アテトーゼ様運動は含むが, 振戦は評価しない。

９ 概括重症度 Overall severity　　　　　　　　　　　　　　　　　 ０ １ ２ ３ ４

錐体外路症状全体の重症度。